

理研興業(株)

基礎工における新工法の提案強化へ

防雪柵のトップメーカーである理研興業(株)は、従来の基礎工に加わる新工法として、「NSスパイク工法」の提案を推進していく方針であると発表した。NSスパイク工法とはらせん状に加工した平鋼を杭に用いる地盤補強工法であり、同社はこのほどNSスパイク協会・北海道総販売店として登録された。

NSスパイク協会は、関ソーラー、太陽光発電・風力発電グループである(株)日力発電といった自然エネルギー本ネットワークサポートをギア施設等、それらの基礎本部(事務局)とし、二〇として、防雪・防風柵の基一二十年の発足以降、基礎設計で培ったノウハウを国でNSスパイク工法を活用し、今後幅広い分野で用い、製品と施工の品質向上、原価の低減、会員の経強化していく方針である。営合理化と技術力の向上に努めている。

NSスパイク工法

理研興業(株)では防雪・防風柵はもとより、標識柱や遮音壁、また近年北海道において高い需要があるメカ



現場に「NSスパイク工法」が適用できる厳しい施工条件にも対応する

また、地下埋設物等の障害物にも対応可能であり、廃土も出ないため、掘削廃土に規制があるような用地など、今までは施工が困難だった現場においても提案が可能。NSスパイクの用途は今後大きな可能性を

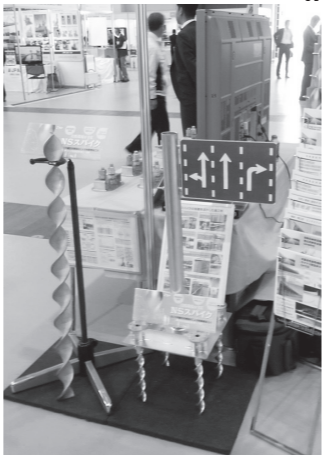
秘めていると考えられる。

NSスパイク工法は二〇一一年十月に(株)日本建築総合試験所(GBRC)の建築技術性能証明書を取得(GBRC性能証明 第11一13号)ねじり平鋼杭状補強材による地盤補強工法。一般住宅や建築物の基礎としての性能が十分に保証されているため安心して活用することができる。

北海道における需要

北海道では豊富な日射量や建設用地の確保が容易であるといった優位性から、昨年七月にスタートした再生可能エネルギーの固定価格買取制度を契機に、太陽光発電について自治体、民間事業者において事業化に向けた動きが活発している。昨年、経済産業省のまとめた発表によるとメガソーラーの設置認定状況は全国でも北海道がトップである。

メガソーラー設置には事業者が用地を二十〜二十五



施工状況

年といった期間でリースする場合が多く、従来のコンクリート基礎だと用地返却の際に原状回復のコストが発生してしまう。一方、NSスパイク工法はコンクリート基礎が不要であり、逆回転により容易に引き抜きが可能。土地の資産価値を下げることなく、引き抜いたNSスパイクは再利用もできる。

このように、リサイクルの来場者にPRした。従来の基礎工法に加わる、新たな工法として「ZIG」「NSスパイク」といった選択肢を提案することで、経済性の向上や環境への配慮へとつながるといった。同社はことし二月七、八日に秋田県で開催される「ゆきみらい2013 in 秋田」にも出展予定で、「E

E東北」同様に幅広い分野への活用を見据えたPRを行う模様である。

今後の展開

今後、北海道における防雪・防風柵は新規設置だけでなく、従来の対策(施工)が困難であった場所や、本体の経年劣化対策が必要となってくる。そのような現場においてNSスパイクをはじめ、様々な選択肢を提案することで、現地に最も適した製品を提案できると理研興業(株)は考えている。

近年、建築物の耐震対策が見直される中、本州では神社の鳥居や灯籠などの石構製品などの耐震対策工事にもNSスパイクの実績がある。

同社は多くの新製品の開発、製品のラインナップの充実を図りつつ、防雪・防風柵にとどまらずこのような幅広い用途を見据えた営業活動を強化していくにあたり、今後道内各地域の販売店を募集するとしている。